

13
1928
2

但馬

仲屋五右衛門
湯嶋



つれく瞬川ニ遊む

あけうらま
花鳥川の瀏漑常なるぬ世ふしつ
バ。さうさうつりしとけりだのひひ
ひりかひて。花垂ありし一
のい路里も。流し清き焼の葉碗
とけり。あのお向う風さりと
まの首系れ葉葉の風流もい何し

柳ヤナギうれ社い場だとかりるからくりま的ま流りや
盛さかんなるそのハかとりへおとろあるりハ
まさかん盛さかんなるとぞ。ははまを全ぜん盛せいの
白人こくじんも。らてハ日ひびびさ裏うら任にん店てんと
なり。身みれ業わざも樹きのこ枝えだとくる女
の髪かみ結むすひきん。い川がわもあう附つ吉きち布ふ子こ
小こ帯おびがしられお舞まご引ひ志しめ。舟ふね戸と
から提さげてくる手て桶おけハいあへのうぐひ

ちや
茶ちやらんの水みづよりもかろげふむり
眉まゆの志しんとはくりー溜かたのすこハいぬ
身みれとどの肩かたふれこる。味あじ増そ塩しれ小
笑わらひあけ。おくのちろるまぢり。酒
そのいも孫まごバ産うと去とふむうをか
たらん物ものれかもろでとれはりま
しと。津つ尾おがめるえいとわしるまき
さといどおのがさるくおて。おまり

家に育つ娘も。身と捨てしそろうむ
せと古き流。そは波あふさぬくの
いうり。に岐名を身。身は後羅錦
繡とまといひ。かしいものさひさひものハ
當事。形。此賞ぐ。皇小何々。かび
縮細の綿。体。ハ。さげらるる。さひの
や。天鵝織。此帯。ハ。おもしろう。てい。や。ト。や
の。さ。ぬ。く。此。その。好。さ。芝。居。ハ。か。ら。り

め交し。ズ。日。六。日。の。ん。法。け。さ。る。お。も
ゆ。ど。さ。え。な。し。ひ。む。う。ひ。て。お。里。へ。か。ら。る
ふ。も。黒。土。法。踏。ど。現。互。親。ふ。か。し
て。の。身。此。活。ル。心。茶。羅。も。茶。を。立
う。美。く。も。ぬ。さ。た。だ。ひ。ぞ。う。し。あ。る。と。記
ハ。肩。ま。ぐ。ら。ひ。小。あ。そ。て。く。お。さ。ご。め。だ。極
と。ひ。あ。う。さ。親。方。れ。い。さ。え。ん。店。の。い。ん
ト。ご。も。ほ。く。し。む。く。の。ら。と。ま。ぬ。く

逢ふのむくのそがまひしむれてある
 ハ重宿いそぐらふまどらうじふもふいふそ
 とめれ家のなまひおれ大くの運ひうひ
 状じやうのさいそくの仲ちゆうてもくくも様ざうまめ
 中ちゆう着ちやく深人しんじん死し小夜せうやとしてさせるうり
 ゆひ針はり車ぐるまに心こころ掛かるハまもも出い世せ
 の後のちのたうあしおるべし御み小こ妓ぎハ
 氏うぢ直ちよくしてまづくれ家いへうけけ法はふこのよ

まぞ迫せま漢かんの男おとこと佐さ不ふ法はふさう身みも
 けふハ如ごとふ久ひさ之の下した雅みやびかえ帯おび此こゝ所ところ風かぜ
 日ひた小こづまらるる子これ世よ活いもいふと
 何なにハ端はた祇ぎ屋やの神かみまひりも友とも信しん
 紫むらされうらやじごうとさぬ

今いまひささくもさうさたのそのハ法はふ
 けりさふそあを先まへかこ日ひ法はふ

二



三



くくちりて。年酒の盃も雑用代
 の嘉例とありさす。十二月此子孫と
 小むと免が決くまりの音も。こと
 の外不ちらめさして。姑とやめる日新
 多物束の妓の出立ハ喜柳此粧ひ
 せやくこ。二階ふさこより。蘇玄古の唱
 伊美鳥の轉と疑ふ。沛忘のく東
 山此と後こそあれ。今屋の田楽のうり

小東風殺ぐやど。其六夜は初出の
 余波より。初年淫繁とかわくまで
 兼にんとそなやまに。管職の鯨
 室此を地亦汗の三弦おハ加の
 屋根ふく。里行厨の咄和様ハ音やの
 何れ終くかくま。梅此致るる本
 げ小卯のむね。政目が帯に咲かるとさす
 物新のほまたに。おとからる櫓のうり

よりも。園中此伽羅の白ひふぞかき
 なる親にもむしうと志のひこひり
 おりひ出らたぞか。娘ふれきよげふ
 新妓のかやけおらさる。いつきお
 まえうし。大和橋此夕暗ハ曇れ灯火を
 あらきひ。先斗所のせう平しハ。又の
 水鶏ふまふ。納涼の法練初のは白人の
 え肢は名目とえらふとといども。川

端の床ハ六月節目ふかけやあそろへの
 相教あハむや形れど。あかそむい
 そぐんきひハあくさけさる。鴨川の水
 のひくとふまはぐく。むや海津金ぐ床儿
 いとすむし。あも良更文形やど。意
 の情さうさる。此仕あも。おそひやれて
 面白さもまする。あとの。あつ癖のいほ
 こそそ美去しとる。ハ新けら此あや

心

しよと後善の形得く。まうほの申化
粧。氣色けいしき更さらりるうかのくく見して。数かずき大
替かるも又また衣あはぬり。髪かみ結むす床とこの暗くらき床とこふ
神かみの髪かみとくる比ひ繩いとも此こゝ切き新あらた形かたち椅いすの
證あかしはかどの子こ管くだちりくう。あやあひひ
やるる色いろ。二ふた年ねんよの月つき。高たかく量りかる此こゝ杖えい形かたち
分くされ報あはれもやうこそ。松まつさしさきかく
云いつらぬ。白しろ笑えが物もの子こ。庭にわはらぐ

心

瞬ま法ほう義ぎ小こあありあれと。あありいと
ぬものあありも何なにもどがゆゆいぬハハ解げん
長なが此こゝ殺ころ纏むす念ねんて素す度たりするふいれを
らりふふままううせせささくく小こははをを。いいややりりすすららいいさ
そのあれど。人ひとここんんととふふもも何なにももたたて
冬ふゆ枯かのりりささハハ杖えいももかかささくくおおらら
ままげげきき。顔かほ見み世よ此こゝ積つ物もの初はつ日ひ此こゝ評ひやう判ばん
ハハ我われ逸いつくくややとと専せんとと守まもるる。芝し居い系けい屋や

摩訶止観

十

接^さ交^たと^うう^ら也^ま。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 臘^{ろう}月^{げつ}を^きや^どち^るあ^まり^れを^こそ^ん
 か^そこ^のあ^き。人^もも^の月^の清^す
 る^ふ送^くり^むひ^の中^げ結^けた^る。あ^おも^さえ
 て^待人^れも^なら^う。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 の^田温^う純^じ賣^うれ^ある。川^ちち^りれ^の夢^{ゆめ}
 も^花小^こを^きう^でる^も。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 下^か河^か原^{げん}車^{くるま}始^{はじ}の^怪。う^づめ^こう^のね^こも

ま^まこ^うう^うこ^なき^大。三^{じゅう}十^{じゅう}日^{にち}の^かけ^らあ^らは
 手^て代^{だい}ひ^びと^これ^も。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 と^そう^にぬ^い。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 ま^まさ^あれ^うづ^ら。あ^まり^れを^こそ^ん
 別^{べつ}と^惜む^も。又^{また}ぬ^い。一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く
 か^くて^明か^く。あ^まり^れを^こそ^ん
 う^らり^たり^ら。あ^まり^れを^こそ^ん
 一^よ夜^よも^な寝^ねど^やく^く。紙^{かみ}屋^や所^{ところ}。あ^まり^れを^こそ^ん

さらして。うらうらゆる。なま笑門のかざ
 里小妻をせれらるるさぬこそ。又むらんまき
 小海川。小吾味うもくても。色事れさ
 うぬちあハ。いとけうらく。あ。婿家れ。高
 のぬけこわど。香。ま川。後。子乃あ
 がり根。どんく。く。く。人そまの葉
 陸怪ひ。ち。た。ゆ。も。あ。ま。よ。と。て

手とたたく。鼻紙。まらりて。顔。小。り。て。る。欲
 藝子。れ。江。又。ハ。大。く。義。を。支。の。を。掉。け
 い。も。も。と。り。ま。完。と。よく。ね。こんで
 ち。小。向。て。さ。う。さ。い。ま。う。の。う。け。た。く
 ち。て。二。より。あ。り。て。山。姥。ど。ひ。け。ハ。柏。子
 小。か。つ。て。深。付。の。絆。を。く。さ。い。の。た。く。欲
 ち。り。れ。無。藝。強。さ。可。愛。や。ら。ぬ。さ
 の。と。浦。園。表。形。し。と。身。を。ま。で。小。る。物。店

舞臺

十

の大厄害。けやうふして何そんでめふ
とらへ。書付とせらるとけむうまいの世
蘇子ハ茂介の方へういてやせの。係
未練の碎とすま。ま癖十毛寝盤小
か。こり色バ何より引とや。た景用ふ
まゆども。金さくも。いど。あまら。れうら
有がふい。百遍やどりあて。附合杯。ばり
ぬ時。良。困眼の。る。管。で。は。何。でも。う

まひ高貴のやうにありど。あらの松子と
ん。こ。と。ま。ハ。め。い。こ。い。も。の。あ。も。い。う
ど。總てけ類の。我。お。入。を。れ。接。び
な。れ。た。ち。と。い。わ。ぬ。と。り。斗。て。銀。を。ひ
ハ。信。分。よ。い。も。の。そ。こ。と。エ。ま。す。り。時。ハ。合。ぬ
何。き。あ。ひ。も。又。金。高。と。減。多。無。と。り
も。そ。と。も。や。して。戲。場。行。同。様。系。の。種。を
古。ゆ。の。會。日。す。で。約。束。と。ら。く。り。付

のちせうととまろが。この費三百と拾える下
 二層大佛は佛の教やどの金もあちと
 うりることをおとくとふとたうと好く。まけか此
 の中宿津留利の籠を右座まで奉
 持糸ささきとて甘房の彩ふ。莫あさんも因
 方れそ尾らうて一ひりうも受人扱
 の方（禿らきとて）うもなりますと。さして
 ひりうり今更何とはな方もぬい。はし



お對ちこれにて。こてもるなまこ
その牙れく思案たろく我意之
をむ。おくの魚も不集。店拂れ遍所
ハ典當舗の奉。まじり。ちまの紋
白蛇形の喜梅れぬのこ。栗梅小紋乃
一重。お織方松紋の活衣す。で。お紋
かざいの俄質。かろささ人。も。瞬の
一。酒。解。昌。形。廓。申。れ。た。ろ。ひ。そ。き。と

ありは。檀柄。あそんで。金
やめと。よ。は。こ。好。ぶ。さ。の。一。さ。ま。し。さ
と。ご。さ。り。熱。して。女。小。お。り。ら。く。半。張
こ。好。と。は。い。こ。と。唯。美。人。の。ふ。小。り。と
う。ん。乃。ふ。そ。む。じ。ぬ。と。と。瞬。と。も。こ。好
とも。よ。べ。り。ま。む。う。ハ。あ。の。襟。小。海。と
い。ひ。一。が。近。来。ハ。縮。緬。の。あ。り。も。何。て
小。あ。ら。ず。そ。き。ら。り。ハ。さ。ら。ら。り。と。一。系

入のぬのこ小紋此好織こぞう。此こぞうはこぞう十
斗と少すて。ほほ分ぶん瞬とん季せのないきやくがまさ
茶屋方ちやうのなあらぬらべし。んんててくまさ
よよううててああららぬぬもののハハ茄子なす子こはは好こ二に重じゆう
ああらら。夫おとこももハハ男おとこ風かぜ俗ぞくもも足あしやいしし仕し
出いしし細こま身み作つくりれ長ながいい脇わき格か小こ入い下した紋もん
の短いいおお織おり杜つばき丹に掛かのは茶ちや此こ胸むね細こまささ
ハハのないいもももも足あし勢せいかかららおおくくららぬぬ。茶ちや屋やハ

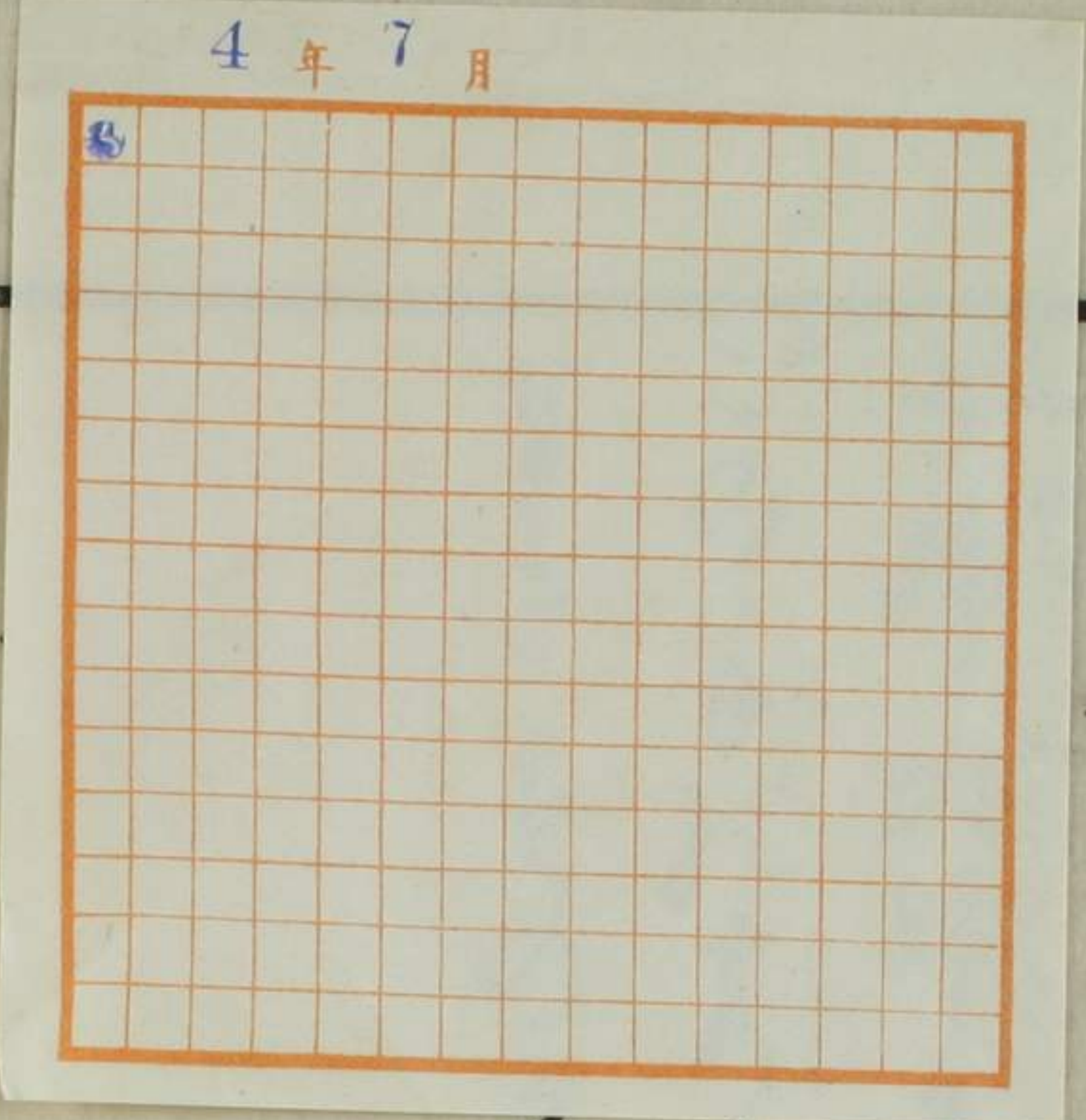
ああままささどどもも法はふ海うみ。表おもてががぬぬののひひと
十じゅう月げつ比ひのの水みづ鳥とりははややううににああららととハハほほじじ
ららららへへああらら汗あせ。ああそそここのの茶ちや屋やででハハ
方かたれれ下した小こ腰こしううけけななががらられれ小こ女め良らききががりり
又またハハ是こゝろ所ところのの白しろ花はな藝ぎ子このの三さん弦げん若わか三さん階かい
の揚口あげままででここししおおししててややりりととららああよよ
ととぬぬおおららんんのの蓋ふたをを傳つたへへててややりりたりり
かかああいいぐぐららとと仕し因ゆゑととここ後あとががけけ折お見み合あ

序の二

つれなく瞬々川暮る之終

ての控ひろひがひ。ふううといとりのうら

ももよくこころゆるていせむ
た却あつてちや茶屋やふそん



つれなく瞬々川暮る之終

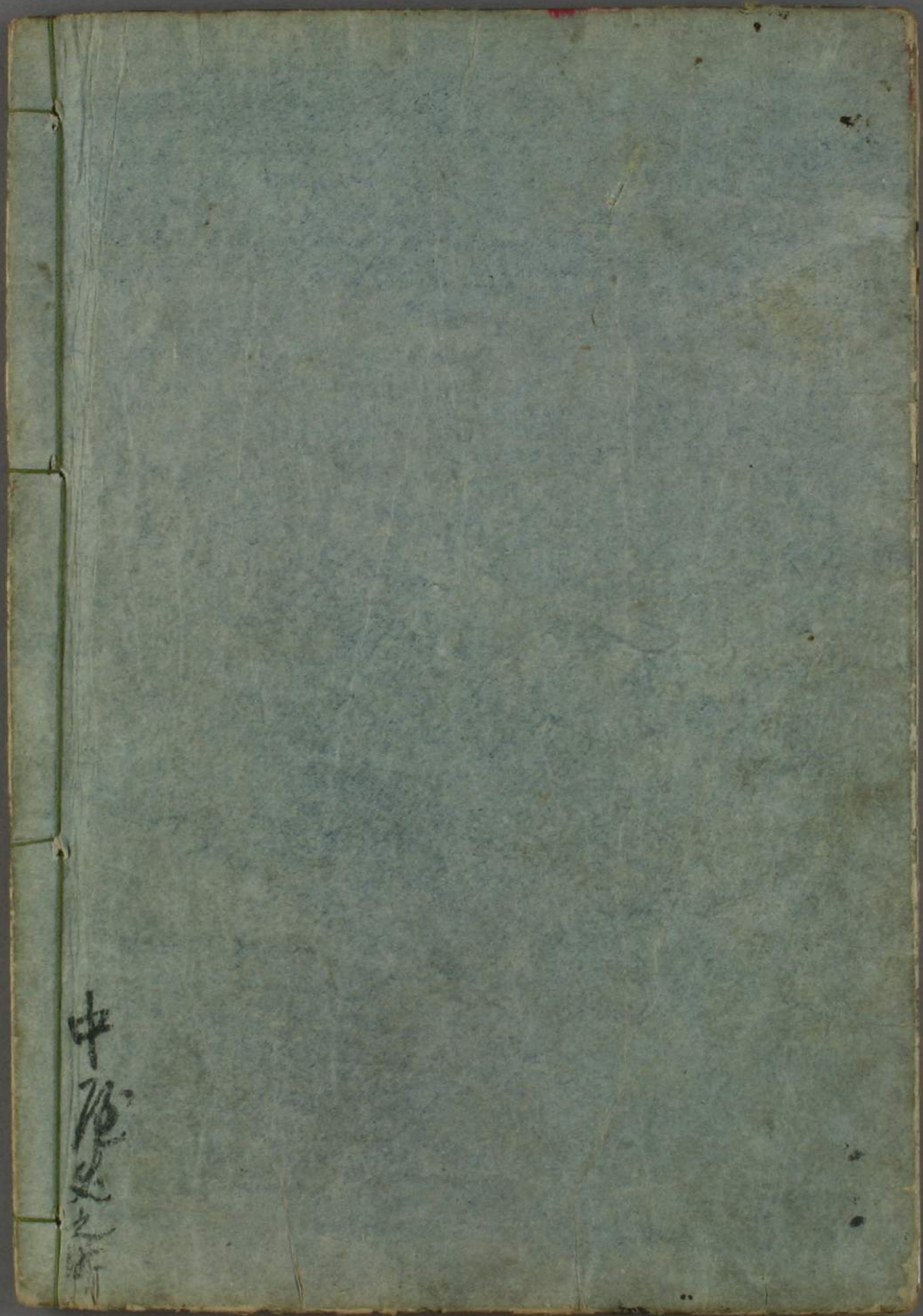
付寄物方
茶屋の茶
つれなく
川暮る
中五島

ての控ひろひがひ。あううといひりては
少婦こめづ炊婦くわいふまでもよくいひていせむ
この子これあはた却かへて茶屋ちや小そん
ぢささものう

つれく瞬々川暮之終

付巻の方
桑のた
あつた
旅のり
中五巻の
終

つれく瞬々川暮之終



中
卷
之
新